

■【不定期連載】デジタル人材採用のヒント

<第3回>ビジネスサイドのDX人材、活躍する人の3つの特徴(スキル以外)
株式会社ピボット シニアコンサルタント 新保博文

▼活躍する人の3つの特徴(スキル以外)

私がこれまで見てきた中で、スタートアップや大手企業のデジタル部門において活躍する特徴を、思い切って3つに絞ると以下になります。

- (1)最新情報をキャッチアップする
- (2)様々な立場の利害関係を踏まえたコミュニケーション力
- (3)決まりがないことへの耐性

以下、それぞれ解説していきます。

(1)最新情報をキャッチアップする

これは、新しい技術であったり、新しいビジネスなどへの関心を常に持って、情報をとっているかということです。

前回(2/16号)ご紹介した、「重視すべき素養は好奇心」という内容とも重なるところです。

DXを考えるにあたっては、すでに世に出ているサービスなども当然参考になります。

普段から色々なサービスに触れているかはアイデア着想において重要です。

業務で使うツール一つ見ても、目まぐるしく新しいものが出てきています。

例えば、ドキュメンテーションのツールを振り返ると、10年前であれば、マイクロソフトオフィス(パワーポイント、ワード、エクセル)が主流でしたが、今はGoogleドキュメントを使う企業が非常に増えています。

また、最近ではNotionを利用して社内のドキュメント管理をしている企業も増加しています。

プレゼンテーションをよりビジュアルで魅せたいためCanvaを使うケースも多々あります。

最新ツールを使えば良いということではありませんが、デジタルビジネスのトレンドを掴むためには、どんどんキャッチアップするビヘイビアが欠かせないと思います。

(2)様々な立場の利害関係を踏まえたコミュニケーション力

新規事業においては、社内だけでなく、外部とアライアンスを組むケースも多々あります。

近年では、様々なアクセラレータープログラム等も増加しており、スタートアップとのオープンイノベーションがあるケースやIT企業とコラボレーションする動きも増えています。

その過程において、利害関係の調整がかなり発生します。

自社あるいは自部署のメリットだけでなく、各ステークホルダーの置かれている状況を念頭において、相手の欲しい物も整理する必要があります。

この点を疎かにしていると、プロジェクトの途中で必ずほころびが生じてきます。

初期段階から、各関係者のメリットや成果をしっかりと認識し、丁寧にコンフリクト調整を行うためには、単なるコミュニケーション力だけでなく、相手の立場をしっかりと分析・理解できる必要があります。

(3)決まりがないことへの耐性

これは、「変化を楽しめる正確」「ルールを作ることができること」などにも言い換えられます。

新規事業においては、勝ちパターンもなければオペレーションのルールもない、当然マニュアルもありません。

事業が進むにつれて、新しい課題はさらに山積していきます。

成熟企業のように「決まり」がないため、「決まりに沿って動く」ことができません。

自分自身で解決方法を考え、社内で合意を得て、「決まりを作っていく」必要があります（しかも、その決まりもすぐ変えざるをえない）。

決まりを守ることができる人は多くいますが、決まりがないことに耐えて楽しめる人は思うより少なく、貴重な特徴といえます。

.....

▼(新卒)採用において、どのように見極めるか

最後に、上記の3つの特徴を新卒採用（の選考）で見極めるためのアイデアをご紹介します、今回のコラムの締めくくりといたします。

（1）の最新情報へのキャッチアップについては、単純に「最近どんなアプリを使っているか？便利だと思うポイントはなにか？」という質問で十分でしょう。

（2）（3）については、採用の質問の定番である「学生時代に頑張ったこと」に関連して聞いてみるとよいのではないのでしょうか。

「頑張った取り組みの過程で、登場人物のことをどれだけ想像していたか？」「従来の方法から工夫したことや飛躍させたことはなにか？」

を織り交ぜ見てみると、ポテンシャルが見えてくるかと思います。